

# 雪解の榆陵の

(昭和十九年寮歌)

鈴木信夫 作歌  
竹山賢治君 作曲

一

雪解の榆陵の一流や  
岸辺に憩ふ水鳥の  
孤影ぞしばし春の水  
面ああ石狩の天空  
晴れて轟け謳ふ恵  
迪の児等が生命や  
聖からん

二

歡喜憂苦を共にせむ  
結ぶ契の盃に  
松の枝漏るる月影や  
人生意気に感じてか  
集ひし雁の行く手  
稲青雲の峯巍峨の  
峯

三

いざや伝統の聖火を  
翳し先人の絢夢  
偲びつつ寮祭の庭に  
四十回の春風  
頬涙を乾すなれば  
散りゆく夜迷雲の  
かげ消えて声を  
限りの感激かな

四

南の海の有明に  
燦く星辰の消え果てて  
散りぬる若桜もあるぞ  
かしいかで我等の蹶起  
ざらん義憤が胸に  
ほのぼのと染め映えに  
しか朝日影

五

噫世は変遷り人変り  
館の原始林は愁へども  
剛毅の大旆仰ぎてし  
熱血燃ゆる益良夫が  
皇国の道に挺身まんと  
誓ひし眸に光輝あれ